



ひと ひと  
女と男の情報誌  
**きらきら**

編集、発行

平成29年4月発行  
きらきら大洗ネットワーク研究会  
大洗町生涯学習課社会教育係  
Tel.029-267-0230  
Fax.029-267-1051

20周年を迎えた  
大洗町おはなしの会 松ぼっくり



H 28/12/10 20周年記念公演  
群読を披露してくれた「松ぼっくりジュニア」とともに



平成28年度男女共同参画週間キャッチフレーズ最優秀作品  
**意識をカイカク。男女でサンカク。社会をヘンカク。**

(東京都 時田 心太郎さんの作品)

男女共同参画社会とは

豊かな地域社会を創るため、家庭、地域、職場など社会のあらゆる分野に男女が平等な立場で主体的に参画し、支え合い、責任や喜びを分かち合いながら様々な問題解決に当たる社会のことをいいます。

# きらきらと 輝く仲間

「出会い」と「仲間」

大洗町おはなしの会「松ぼっくり」

代表 桑嶋 純子

平成9年に産声を上げた子ども達にお話を届ける私達の活動も昨年20年を迎えました。

振り返れば、この活動を続けてきた中で私達が大切にしてきたものは、「出会い」と「仲間」だと思います。私達の会は、幅広い年齢のメンバー構成で、それぞれが個性を生かし、認め合い、毎週のように集まって、多岐にわたりいろいろなことを話し合ってきました。

これらは私達の活動にとっても大切な意味を持っています。ある時は人生相談の場であったり、また、情報交換の場であったりと、それぞれの経験・立場からの話は、時として本来の定例会を逸脱してしまいがちです。でも、気軽に集まって好きな話ができる、笑える、泣ける所などめったにありません。なんて魅力的なところなのだろうと私は思うのです。

本の選択一つにしても個性豊かで、みんなで真剣に意見を出し合い、各自の選択をはるかに超えた面白い作品にも出会えることができました。

おはなし会でも、一緒に楽しもうという感覚で、つついっいオーバーヒート気味ノという時も。子ども達の笑顔は、楽しさを喜びに変えてくれました。

こんな仲間との楽しい充実した時間が、20年という松ぼっくりの活動を支えてくれているのだと改めて感じています。これからも松ぼっくりらしさを忘れず、たくさんの「出会い」を大切に歩き続けていきたいと思っています。

## 大洗町議会女性議員に聞く

昨年9月に大洗町議会では、女性議員が二人となり、女性の立場から色々な面で心強く、幅広く活躍されることを期待しております。

そこで、お二人をお招きし、座談会を開催しました。お伺いした点についての内容とご意見の一部を紹介致します。

【問】女性議員としてどのようなお考えをお持ちですか。また男女共同参画社会推進についてのご意見もお聞かせ下さい。

♪柴田佑美子議員

大洗町も人口の減少や高齢化が進んでいて、福祉の領域でも色々課題があります。認知症の人を抱え、介護する家族も多くなるでしょう。

私自身、幼子三人の子育て中に、親の介護も同時にする経験をしました。その時精神的に救ってくれたのが、幼稚園の先生方や園児のママ達でした。気軽に会話できる雰囲気を作って下さったので、子どもの送迎時に悩みを聞いてもらい、解決のアイデアを頂きました。同じようにいろいろな問題で困っている方々にも、安心して話せて、情報交換ができる場があればと考えています。

また、男女共同参画については、やはり子どもの時からの教育が大事であり、一人一人の意識改革が必要だと考えます。

♪小野瀬とき子議員

私は女性であり、主婦であり、母親です。その立場に立った目線を大切にしていきたいと思っています。子どもを産み育てやすく、働き続け

られる環境づくりや、地域の繋がりを大切にする町づくりなどに、町民の声を届けられるよう努力していきたいと思っています。

また、男女共同参画についてですが、オーストラリアでは働く女性のモチベーション(意欲)が高いです。日本でも、女性が安心して仕事ができるよう、国・県・町・企業等のサポートが必要です。多くの女性が力を発揮して欲しいと思っています。

両議員ご参加いただきありがとうございます。ありがとうございました。自ら足を運び、多くの町民の生の声を聞いていただき、町政に生かして下さいることを期待しています。



柴田・小野瀬両議員との座談会

## ハーモニーフライト 2016に参加して



小野瀬とき子

2016年10月24日～28日、13名にてオーストラリアの研修に参加しました。研修先であるシドニーは、オペラハウスなどがあり世界的にも有名な観光地で、以前よりとても興味のある国でした。事前研修では、移民の多い多民族文化国であり長年にわたってジェンダーギャップの解消や男女共同社会の形成に向けて色々な取り組みがなされている国であり、留学先としても人気で、日本からも多くの学生が留学している国だと知りました。

今回のテーマは職場における女性の活躍とし、子育て支援、教育、地域福祉、3つの視察研修となりました。オーク保育園、ギライーン高校、クロウズネストセンター（地域のコミュニティセンター）などこの場所でも業務の分業化がしっかりと進み、男女問わず仕事の分担がなされていると感じました。働く人たちが生き生きとしていて、個人のライフスタイルがしっかりなされていると実感しました。そしてなにより

もこの研修で一緒に学び、経験した皆さんとのつながりが、実り多きものでした。それぞれが地域や活動で大きな種をまき、育て大きく広げていけると確信しています。女性だらこそだけでなく、人として学んだシドニーでした。



職場の男女平等についての研修

### ハーモニートップセミナーから 男女共に輝くために

「いばらきワーク・ライフ・バランス推進月間」の11月15日県庁において、男女共同参画の推進に功績のあった個人・団体にハーモニー功労賞、女性が輝く優良企業、結婚・子育て応援企業が表彰されました。

その後、企業から取り組みの紹介がありました。

続いて、サイボウズ(株)の代表取締役社長、青野慶久氏による基調講演が、「チームのことだけ、考えた。」～サイボウズはいかにして「1000人100通り」の働き方ができる会社になったか」と題して行われました。青野氏によれば、2005年の離職率は28%と高く、給料や配置転換などでは効果がなく、「1000人100通りの人事制度」を考え、公平性より、個性を重視し、働き方の多様化を進めた結果、2012年離職率は4%に減ったそうです。重要なことは、働き方を変える事であり、**変える覚悟、変わる覚悟**が要ることでした。

ワーク・ライフ・バランスの取り組みは社会全体で進めていくことが肝心と改めて感じました。

### 大洗町女性活躍推進の集い

女性の職場における活躍を推進する「女性活躍推進法」が成立したことを記念し、6月25日(土)「大洗

町女性活躍推進の集い」を開催し、山口やちふ茨城県副知事の講演「女性が輝く社会をめざして」が行われました。文化センター大ホールには町内の女性団体の皆さんの他にも多くの町民の皆さんが集い、町民の力強さを感じました。

### 小美玉市 女性活躍推進フォーラム 「さらり〜輝くのはあなたです〜 女性のキャリア・ラダー」

29年1月29日、小美玉市小川文化センター「アピオス」で、タレントであり母校戸板女子短期大学の客員教授として2児の母である菊池桃子さんの講演を聴きました。キャリアとは、ラテン語の経歴、経験を表す言葉、ラダーとは英語で梯子はしこのこと。欧米の働く女性に人気のある言葉だそうです。

人生を充実させたい  
一歩一歩梯子をのぼるように  
人生の経験を積み重ねる

平成生まれの若者には男女の差はない。昭和の時代の人達にも変化のきざしは見えている。

パワーポイントを使ってのお話は分かりやすく有意義でした。

## 男女共同参画ミニ知識 ③

### ワーク・ライフ・バランスとは・・・

ワーク・ライフ・バランス (work life balance) とは、仕事と生活のバランスを調和させ、その両方を充実させる働き方、生き方のことです。仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものです。しかしながら、現実の社会には、安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない、仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない、仕事と子育てや老親の介護との両立に悩むなど、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く

子育ても仕事も  
楽しんでるよね。



仕事しながら介護もできた。

見られます。これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化という現象にまで繋がっていると云えます。これを解決する取組が、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現です。

## ～きらきら大洗ネットワーク研究会員募集～

私たち“きらきら”のメンバーは年齢層も幅広く、隔週水曜日午前中を活動日とし、豊かで生き生きとした活力あるまちづくりと、女(ひと)と男(ひと)が共に幸せになるための地域活動をボランティアでしています。是非一度、大洗活動支援センターへお越しください。みなさまのご参加をおまちしております。

お問い合わせ ☎ **267-0230** 生涯学習課 社会教育係

きらきら大洗ネットワーク研究会の「きらきら」は、海・女・男のダイナミックなかがやきに夢を託して名付けました。

### 編集後記

#### 「茨城県北芸術祭」

9月から11月にかけて茨城県北部で、国内外から多くの芸術家が参加して開催されました。廃校になった学校、海辺、古い店舗跡など、どこか懐かしい風景の中に、近未来を感じさせる作品もありました。また、手で触れられる作品もあり、心揺さぶられる多くの作品に出会い、一日や二日では回り切れないほどで、感動しました。

また、会場を手伝う地元ボランティアの方々の意気込みも伝わってきた芸術祭でした。



チームラボの作品 (天心記念五浦美術館)